



！！風疹に注意！！



首都圏を中心に、風疹が流行しています！

風疹とは

風疹ウイルスの飛沫感染により発病します。感染力が強い麻疹とは異なり、感染力はさほど強くなく、感染しても15～30%の人は症状が出ない不顕性感染です。

しかし、妊娠初期の妊婦が感染すると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴・心疾患・白内障・精神や身体の発達の遅れ等の障害(先天性風疹症候群)をもった赤ちゃんが産まれる可能性があることから、注意が必要です。

風疹の症状

📖 潜伏期間

潜伏期は2～3週間(16～18日が多い)です。

📖 症状

- 初発症状は、桃紅色の小さな細かい発疹です。初めは顔面に現れ、すみやかに全身に広がります。発疹は3～5日で消えます。
- また、発疹とともに微熱が出ますが、2～3日で治まります。その後、再び39℃以上の高熱が出るとともに、発疹も出ます。
- 耳下腺や頸部のリンパ節腫脹があります。リンパ節腫脹は発疹の前から認められ、発疹が消えてからも数週間続くことがあります。



※麻疹との見分け方：口の中の粘膜に白い斑点(コプリック斑)ができること、一度解熱後、再び39℃以上の高熱が出るとともに、発疹が出現すれば、麻疹です。

📖 予防法

風疹は飛沫感染によって広がります。感染する可能性が高い人ごみを避けるようにしましょう。人ごみへ外出するときはマスクをつけ、帰宅したら手洗い・うがいを必ず行ってください。

次の年齢の方は特に注意！

① 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性

- ・ 定期予防接種制度が行われていないため、風疹の免疫がない人が多い世代です。

② 昭和54年4月2日～平成2年4月1日生まれの男女

- ・ 個別接種のため、予防接種の接種率が低い、または接種を受けていない人が多く、風疹の免疫がない人が多い世代です。

※ 自分や家族が抗体を持っているかどうか不明な方は、ぜひ抗体検査を行い、必要に応じて予防接種を受けて、自身や家族の感染と、感染拡大を予防しましょう！



GWに首都圏を旅行したなど、接触した可能性がある場合は、症状の出現がないか注意し、症状があるときは、直ちに医療機関を受診するとともに、本学学務課までご連絡下さい。